

# バンヤンツリー杭州

世界にはまだまだ日本人が訪れていないホテルがある。このコーナーではホテルエが知っておくべき「世界のリーディングホテル」を紹介する。

これまで多くのホテル紹介本が出版されてきたが、そのほとんどが現地のホテルと事前に取材の連絡を取り合い、プロのカメラマンや通訳、そのほか大勢を連れ立っての大名取材であり、宿泊は省略といったことも多々であった。本連載では、著者自身が長年にわたる個人旅行中に自分の目で感じ取り、コメントを書き込み、自分のカメラで思いのままを撮ってきた写真を掲載する。

※本連載は毎月2・4週号掲載

バンヤンツリー杭州は中国・華中にある古都、杭州のおやかな自然美を個性豊かに表現して2009年12月に開業した。西湖の西岸側に開発された杭州西溪国家湿地公园にたずむ客室数72室のリゾートは、伝統的な江南建築を表現した美しいヴィラを中心にレイアウトされている。かつてこの地を訪れたマルコポーロは「世界で最も美しく華やかな街だ」と評した南宋の都をしのばせる景観美が印象的だ。

杭州の西湖西岸地域はここ数年最高級ホテルの開業ラッシュでわいている。アマンファウンが西岸の霊隠寺近くに現存する古民家を見事に修復して2010年1月に開業している。フォーシーズンズホテルもシャングリラ杭州の近くにラグジュアリーな78室限定で、予定より遅れはしたが10年秋に開業を果たした。さらにバンヤンツリーのすぐ隣には、大規模なシャトロン杭州湿地公园リゾートが今年8月の開業を目指して準備を進めている。

先行開業しているフォーチュンリゾートを含めると、最高級ホテルの進出過剰懸念が出て来るが、実はそうとも言えないのである。杭州は近年上海の奥座敷としての地位を固め、最新鋭の中国新幹線で上海からわずか52分と驚異的な時間短縮を果たしているのだ。膨張を続ける巨大都市上海の補完的意味合いを杭州は持ち、上海にはない自然との調和を掲げたバンヤンツリーのようなホテルの進出はこれからも続くと思われる。

バンヤンツリー杭州は06年に先行してオープンした、バンヤンツリー麗江の影響を多分に受けて構想が練られたと思われる。ちなみにバンヤンツリー麗江は「中国で最も美しく最も高いリゾートホテル」と中国各紙で紹介され大成功を収めたホテルだ。雲南省のナシ族の領域に建設され、すべて独立したヴィラタイプ55室のホテルである。この麗江をコンセプトモデルとして、杭州の古都風情を江南の伝統的な白壁の建築様式と西湖をモチーフにした池で表現した訳だ。

バンヤンツリー杭州の72の客室はすべてスイートとヴィラタイプになり、半数は本館アネックスにウオーターテラスという名称のスイートで、残り半数は各グレード別のヴィラで構成されている。レストランはオールデイダイニングの「Waterlight Court」、広東・杭州料理の「Bai Yun,白雲」、メインバーの「Jiu Xian,酒仙」がある。特に「Bai Yun,白雲」のティーラウンジでは豊富な中国茶リストから好みの茶葉を楽しめる。ここでは中国緑茶を代表する龍井茶をぜひ試していただきたい。

バンヤンツリー杭州のスタッフのスキル・レベルは高い。特徴的だったのは若いスタッフが多く、コンシェルジュの中にはポロシャツを着て完璧な英語を話すアシスタント・マネージャークラスもいて、IT関連をはじめ多方面にわたって相談に乗ってくれる。バンヤンツリーをはじめとした超高級ホテルが競い合う杭州の今後が多いに楽しみだ。



「Waterlight Court」での朝食ビュッフェ。奥では二人のスタッフがその場でヌードルや卵料理を調理してくれる



ヴィラが点在する庭園の一角に広東料理「Bai Yun,白雲」がある。入ってすぐにウエイティングバーならぬ試飲コーナーがあり、日本緑茶のルーツともいわれる龍井茶も楽しめる



パウダーコーナーの右手には独立したバスタブがあり、外の中庭を眺めながら入浴できる。左側にバスタブ用の最新水栓カランとシャワーヘッドを装備している



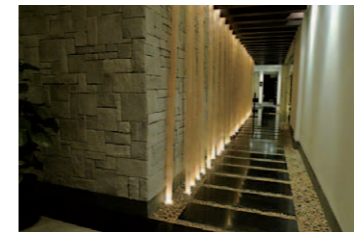
バンヤンツリー杭州はすべてスイートとヴィラタイプの客室で構成されている。キングベッド背後に大きく飾られているのは有名な杭州シルクに描かれた中国画だ。春夏秋冬の四季を花鳥で表現しており、部屋ごとに違った季節を楽しめる



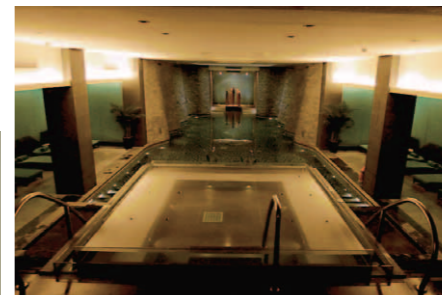
リビングエリア方向の俯瞰。左手に広いテラスにテーブルセットが設置され、右手に玄関がある。この部屋はウオータービュー・ヴィラの名称で130㎡の広さを誇る



グランドロビーから俯瞰したバンヤンツリー杭州の庭園全景。南宋時代の伝統的な建築様式を意識したヴィラ棟が、西湖を模したシンボルの池を中心に配置されている



スパ・トリートメントの各個室に通じる回廊。竹林に見立てた光のオブジェが印象的だ



豪華な雰囲気のスイミングプール。手前が大型のジャグジーで、奥がプールになっており左右にデッキチェアが並ぶ



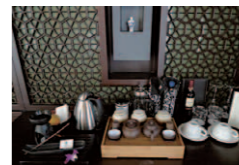
杭州西溪国家湿地公园に接した広大なホテルの敷地に、白壁と灰色の瓦が美しい伝統的な江南建築のヴィラが点在している



ヴィラ入口の玄関門。門柱には各ヴィラごとに違う漢字が書かれている。門の戸締りにはずっしり重い大型の南京錠が使用されていた



門構えをくぐってから客室玄関までは中庭になっている。この中庭で専任スタッフが調理し、本格的なテーブルセッティングで食事をする「In-Villa-Dining」も人気だ



客室のバーカウンターには、味わい深い木枠に収まったお茶のセットが用意されている。龍井茶、烏龍茶、プーアル茶の3点セットだ

筆者 小原康裕

ホテルジャーナリスト。慶応義塾大学法学部法律学科卒。74年Munich Re入社。85年築地原健代表取締役。2001年投資顧問会社原健設立、代表取締役CEO。  
※現在、著者のホームページで「世界のリーディングホテル」を連載中。多くの美しい写真と興味深いコメントで、世界中のホテルとそれら関連都市を紹介。ホテルだけでなくとまらず、オリエントエクスプレスなど鉄道関係の掲載、季節刊行で世界遺産の案内などさまざまな情報が得られる。  
www.jhrca.com/worldhotel

